

# 現代中国語発話動詞の意味機能と方言分布

安信 美紀

## 第1章 序論

### 1. 目的

中国語に限らず多くの言語には似たような意味を表す語、すなわち類義語が数多く存在している。似たような意味の語が複数存在するのは必要以上に語彙が増える上、どのように使い分けたいか分からず紛らわしいと思う人も多いであろう。そんな類義語について、池上嘉彦は『意味の世界—現代言語学から視る』の中で以下のように述べている。

「かりに二つの語が完全に同義であるとするとその二つの語はどちらを使っても全く同じように伝達の目的を達することができるのであるから、二つが並存する必要は全然ないということになる。」(池上嘉彦、2006『意味の世界—現代言語学から視る』日本放送出版協会 49頁)

上記の池上の記述から考えると、類義語とされる複数の語が完全に同義であり、同じように使用されているとすると語彙が必要以上に増えてしまい言語行動の効率が悪くなってしまうと考えられる。そのため、歴史上淘汰されず残っている類義語はそれぞれ必要に応じて使い分けされていると考えるのが自然である。

本研究では様々な類義語の中から現代中国語における発話動詞「讲」、

「说」、「话」、「谈」を取り上げ、それぞれの意味機能や方言による使用語及び意味の差異を明らかにすることを目的としている。

本研究における「発話動詞」とは、「言葉を声に出す」という意味を表す動詞のこととする。本研究では数ある発話動詞の中から、「讲」、「说」、「话」、「谈」の4語についてその動詞的意味機能とそれぞれの地域分布を調査する。上記4つの発話動詞を選択した理由は、意味の抽象度が高いためである。具体的に説明すると、「言葉を声に出す」行為というと基本的な「言う」や「話す」という行為の他にも、「歌う」ことや「叫ぶ」こと等、様々な行為が思い浮かぶ。上述の例の場合、「歌う」や「叫ぶ」という行為は言葉を声に出して行う行為の中でも具体的な内容を表す行為と言え、「言う」や「話す」は言葉を声に出す行為そのものであることから具体的でない、つまり抽象的な行為であると言えるだろう。上述の4つの語は、現代中国語において政府が普及させている共通語である「普通话」において日本語でいう「言う」や「話す」という意味で多く使用される語であることから本研究における研究対象として設定した。

また、本研究では上述の4つの発話動詞が持つ様々な意味機能の中から発話動詞の最も基本的な用法である動詞的用法としての意味機能を取り上げ、各発話動詞が動詞として使用される際の意味機能の差異について研究する。

## 2. 意義

この研究の意義は2つあると考えている。

まず1つ目は、発話動詞の方言分布を中国全土の地図上で示すことである。国土の広い中国では地域による方言の差が激しく地域によって同じ意味を表す際に使用される語や同一の語の発音、更には文法等が異なることが多いと言われており、方言ごとの辞書や文法書が多く出版されている。これまでの方言研究の中で方言と使用語彙の関係について研究しているものも多々あるが、方言による使用語彙の差についてその分布を中国全土の地図上に示した例はまだ少ない。一部の発話動詞のみとはいえ、中国全土

における地域分布を地図上で明確に示すことは方言研究において1つの意義であると考えている。

2つ目の意義は、各発話動詞の方言における意味の差異を取り上げることである。複数の発話動詞の意味機能の差異について類義語辞典等、類義語を題材として扱っている辞書や書籍で扱っている例は過去にあるが、その多くは普通話における発話動詞の意味機能の差異を扱ったものであろう。本研究においては各発話動詞について様々な地域の方言においてどのような意味機能の差異があるかについて述べるに留まらず、各発話動詞が方言において普通話とは違う意味機能を有しているかどうか、有している場合それぞれの発話動詞は普通話では置き換えることができなかつた発話動詞と置き換えが可能になるのかについても考察する。このように普通話と方言の両方の意味機能を比較するということは意味機能の研究において大きな意義を持つと考えている。

### 3. 方法

研究方法については、普通話と現代中国語における各地域の方言の両方の発話動詞の意味機能を辞書の記載から調査する。普通話については《現代汉语词典》を、方言については様々な地域の方言を同一の基準で調査するため、《漢語方言大詞典》の分巻である辞書シリーズ40冊を用いて調査する。

調査の手順は以下の通りである。

①普通話については《現代汉语词典》の、方言については《漢語方言大詞典・分巻》の各地域の辞書の調査対象とする各発話動詞の項目に記載されているそれぞれの語の意味を表している項目（意味項目）を全て取り出す。

②次に、①で取り出した全ての意味項目の中から動詞の意味機能であるものを抜き出す。《現代汉语词典》については意味項目に「動」と記載があるものを動詞の意味機能を表す意味項目とし、《漢語方言大詞典・分巻》については意味項目の説明や記載してある例文における用法をもとに動詞的

用法を判別した。

③普通話について、それぞれの発話動詞にどのような動詞的意味項目が現れたか一覧表を作成し発話動詞ごとにそれぞれの意味機能について考察した後、複数の発話動詞に共通して現れている意味項目と特定の発話動詞のみに現れた意味項目が何かを調査する。

④方言について、地域ごとにどの発話動詞が日本語における「言う」や「話す」といった意味を表すかを表で示し、その結果をもとに発話動詞ごとの地域分布を中国全土の白地図上に記号で示す。その後、使用される発話動詞ごとに記号を分け、中国全土における発話動詞の分布図を作成する。

⑤各発話動詞について、地域ごとに何の意味項目が記載されているかを発話動詞ごとに表で示し、地域ごとの意味機能の違いについて、また、普通話における意味機能との差異について調査する。

⑥調査結果から結論を導き、残された課題を整理する。

#### 4. 構成

本論文は第1章から第5章で構成されている。第1章の序論では本論文の目的、意義、研究方法、論文構成を提示する。第2章は先行研究に関する部分であり、第3章から第5章が本論にあたる部分である。

第2章の先行研究では、類義語の比較対照の例として、中国の類義語辞典2冊と中国語の類義語について書かれている日本の書籍1冊から本研究において研究対象としている発話動詞についての記載を参照し、各発話動詞の差異についてのこれまでの研究を示す。

第3章では《現代汉语词典》における各発話動詞の動詞的意味項目の記載から、普通話における各発話動詞の意味機能の差異について、具体的には各発話動詞が普通話において有する動詞的意味機能と複数の発話動詞に共通する意味や単独の発話動詞のみに現れる意味について考察する。

第4章では各発話動詞と方言の関係について述べる。《漢語方言大詞典》の分巻として刊行されている40冊の方言詞典シリーズを用いて発話の基本的な意味である「言う」や「話す」といった意味で使用されている発話

動詞の地域分布とその傾向について示した後、各発話動詞がそれぞれの地域においてどのような意味機能を有しているかについて考察する。

第5章は結論とし、第3章、第4章で考察した内容についてまとめ、本研究で解決することができなかった今後の課題を示す。

## 第2章 先行研究

### 1. はじめに

ここでは類義語についてのこれまでの研究として、類義語辞典や現代中国語の類義語について書かれた本計3冊から研究対象とする各発話動詞がどのように使い分けられているかということについて示す。なお、文中の日本語訳は全て筆者によるものである。

### 2. 《同义词大词典》(程荣)

まず、中国で出版されている類義語辞典である《同义词大词典》には各発話動詞の差異についてどのように書かれているかを見てみたい。《同义词大词典》の「讲」と「说」の差異についての項目には、以下のように書かれている。

「在“用话语向别人表达意思”的意义上构成同义关系。二者的语义侧重点有别。“讲”侧重于指叙述、描述某个事实或事件过程，如“当他讲起贫困山区的孩子来，我看见泪水在他的眼眶里打转”；“说”侧重于指用话语表达意思，可用于各种事情的表达，如“事情太复杂了，一时说不清。”(《同义词大词典》：442)

(「言葉を用いて他の人に意思を伝える」という意味で同義関係を構成している。2語の意味の重点に違いがある。「讲」は事実あるいは事の過程について述べることに重点が置かれており、「彼が貧しい山間部の子供について話し始めると、彼が目涙を拭うのが見えた」という例が挙げられる。「说」は言葉を用いて意思を伝えることに重点が置かれており、様々なこ

とを言い表すことに用いられる。例えば、「ことはとても複雑なので、すぐにははっきり言えない」という例が挙げられる。）

また、「讲」と「谈」について比較した項目では「谈」について以下のよう

に述べている。

「“谈”侧重于指把意思表达出来，让对方知道，含有交流思想，沟通感情的意思，用于较正式的情况，如“诚恳地谈谈对解决彼此间矛盾的看法”。」（《同义词大词典》：442）

（「谈」は意思を言い表すということに重きを置いており、相手に理解させること、意見交換をすること、意思の疎通を図ることや比較的正式な場合に用いられる。例として、「双方の矛盾した見方の解決について真剣に話をする」が挙げられる。）

これらの記載から、「讲」、「说」、「谈」が「言う」もしくは「話す」という意味で使用される際、どのようなことに重点が置いているかがわかる。「讲」は事実や事の過程について述べることに、一方「说」は言葉で意味を伝えるということそのものに重点が置かれているということが明記されている。また、「谈」については考えていることを言い表すということに重きが置かれているとされている。このように、それぞれ「言う」や「話す」という同じ意味を表していてもその重点については差があるということが分かる。

また、「说」と「谈」を比較した項目では、以下のように書かれている。

「在“用言语来表达”的意义上构成同义关系。二者的适用对象有别。“说”适用于日常生活中需要表达意思或进行会话的各种场合，指用言语表达自己的意思，包括解释、阐明，也包括责备、批评，多指单方的行为；“谈”多用于较为认真严肃的场合，也可用于两人或两人以上的对话，多为双方或多方的行为。」（《同义词大词典》：850）

（「言葉を用いて伝える」という意味において同義関係を構成している。2語の使用対象に違いがある。「説」は日常生活において意思を表す、あるいは会話を行うなどの場合に使用され、言語を用い自分の意思を伝えること、すなわち説明をすることや批判をすることを含め多くは一方的な行為を指す。「談」は多く真面目で真剣な場合に用いられ、また2人あるいは2人以上の対話等、双方向や多方向の行為に多く用いられる。）

ここでは「説」と「談」がどのような場面において使用されるかの違いについて場面、行為が一方的か双方向的かの2点から述べられている。まず場面については、「説」は日常生活の中において自分の考えを伝える場合や説明、非難をする場合に使用され、一方「談」は主にまじめで真剣な場合、つまり正式な場での話で使用される。行為の方向については、「説」は一方的な行為を指すことが多く、「談」は複数人での対話等、双方向あるいは多方向の行為に多く使用される。

### 3. 《同义词词典》(张清源)

次に、2. で挙げた《同义词大词典》と同じく中国で出版された類義語辞典である《同义词词典》において各発話動詞がどのように使い分けされているかを見てみることにする。以下は、《同义词词典》の「谈话・说话、讲话」の項目を抜粋したものである。

「都可作动词，都可表示用言语表达意思。“谈话”多用于两个人或许多人在一起说话的行为，也可用于组织派人于个别人谈思想，交换意见；“说话”可用于两个人或许多人的行为，也可用于一个人的行为；“讲话”多用于一个人的行为。“谈话”“讲话”有时带有庄重色彩，“说话”有较随便的意味。（後略）」（《同义词词典》：309）

（全て動詞として使用することができ、言語を用いて意思を示す際に使用される。「谈话」は主に2人、あるいは複数人が一緒に話をする行為、また組織に属する人が他の人に考えを話す際や意見交換をする際にも使用され

る。「说话」は2人あるいは複数人での行為に用いることができ、一人での行為にも使用することもできる。「讲话」は主に1人での行為に用いられる。「谈话」、「讲话」はまじめで慎重な意味合いを持つことがあり、「说话」は比較的気軽な意味である。）

ここでは各発話動詞が使用される際の場面の差、特に各発話動詞が表す発話行為の対象人数とそれぞれの意味合いについて書かれている。まず人数については、「谈话」は複数人での行為に、「讲话」は1人での行為に使用され、「说话」については複数人での行為、1人での行為両方について使用することができるとしている。これは上述の《同义词大词典》にあった「谈」は2人(以上)での対話に使用されるという内容と一致するが、「说」については《同义词大词典》の一方的な行為で多く使用されるという記載と異なっている。

次に各発話動詞が持つ意味合いについては、「谈话」と「讲话」はまじめで慎重、「说话」は気軽な意味を持つとある。上述の《同义词大词典》においても「谈」には真面目な場合に用いられるという記述があり、この点においても両者は一致している。また「说」については具体的な場面を提示してはいないが気軽な意味である、ということから「说」は日常生活でも使用できるということは容易に推察できる。また《同义词词典》では《同义词大词典》において触れられていなかった「讲」の意味合いについて、「谈」と同じような意味合いであるとしている。

#### 4. 『中国語基本語ノート』（奥水優）

最後に類義語辞典以外の書籍での各発話動詞の使い分けの例を紹介する。『中国語基本語ノート』は中国語の基本となる多くの語についてわかりやすく解説している。その中の「讲」の項目に「讲」と「说」の差異について書かれているので参照したい。

「讲话」 jiǎng huà を「说话」 shuō huà とくらべた場合、やはりその使い



方にちがいの見えることが少なくないようです。たとえば、“主席在大会上讲了话。” Zhǔxí zài dàhuìshàng jiǎngle huà (議長が大会で話をした) の場合、“说话”を使うのは不適當です。それは、“讲话”が話すこと自体より、話の内容に力点をおいているからといえるでしょう。とりとめのない話をするのではなく、筋道の通った話をするという意味をもっています。」(p149)

上記によると、「说」については話の内容に力点を置いている場合の「讲」には置き換えられないということから、話の内容ではなく話すこと自体に力点を置いているということがわかる。この点は《同义词大词典》における記述と同様である。「讲」については《同义词大词典》には事実や事の過程について述べることに重点が置かれているとしているが、『中国語基本語ノート』では「話の内容に力点をおいている」とだけ書かれており、具体的な内容については記載されていなかった。

また、『中国語基本語ノート』には、上述の2つの類義語辞典には記載されていない「讲」、「说」の「言う」や「話す」という意味以外の意味について以下のような記載がある。

「よく使う熟語にも，“讲书” jiǎng shū (講義する)，“讲道理” jiǎng dào lǐ (道理をとく) など“说”にはおきかえられぬ例が目につきます。(中略) “讲”が“说”にまったくおきかえられぬ用法として「重んずる；気をつける」という場合があります。(中略) 日常のことばにも“讲卫生” jiǎng wèishēng (衛生を重んずる)，“讲礼貌” jiǎng lǐmào (礼儀を重んずる)，“讲面子” jiǎng miànzi (体面を重んずる) など熟語が少なくありません。」(p150)

ここには「说」ではなく「讲」のみに現れる意味が多数あるということが示されている。具体的には、「重んずる」あるいは「気を付ける」という意味が「讲」のみに現れる意味として提示されている。また、熟語レベルにおいては「講義する」、「道理をとく」といった意味について、これらは

両方とも発話を使用する行為であるがこれも中国語においては「说」で表すことができないとしている。このように、同じ発話動詞でも「言う」や「話す」といった広義の発話を表す意味以外の意味には差があることが分かる。

## 5. まとめ

今回取り上げた3冊の書籍に記載されていることから、発話動詞「讲」、「说」、「谈」の差異について以下のようにまとめることができる。

- (1) 各発話動詞が「言う」や「話す」といった意味で使用される際にどこに重点を置くかについて発話動詞ごとに差がみられる。まず「讲」は事実やその課程について述べることに、すなわち話の内容に重点が置かれる。そのため、筋道の通った話をする時などに使用される。次に「说」については、言葉で意味を伝えるということそのものに重点が置かれている。「谈」は考えていることを伝えるということに重きが置かれており、意見交換などの際に用いられる。
- (2) 各発話動詞が使用される場面の違いやそれぞれの意味合いについても発話動詞ごとに違いが見られた。まず「讲」については具体的に場面が示されていないが、真面目な意味合いであるということが明記されている。次に「说」は、日常生活において使用されるような気軽な意味であり、最後に「谈」は正式な場面で多く使用される真面目な意味である。
- (3) 各発話動詞で表される行為を行う人数について、一人で行う行為に使用される語は「讲」、「说」であり、複数人での行為に使用される語は「说」、「谈」であった。「说」は一人での行為、複数人での行為ともに使用できるため、「说」が使用される行為において人数による制限はないと言える。
- (4) 「讲」について他の発話動詞には置き換えられない意味として、「重んずる」、「気を付ける」等が挙げられていたが「说」と「谈」については同様の記載がなかった。

以上から、これまでの発話動詞の比較対照研究においては発話動詞が「言う」や「話す」という意味で使用される際にどこに重点を置いているか、各発話動詞がどのような場面で使用されるか、それぞれの発話動詞が使用される行為の人数にどのような違いがあるかについて比較しているケースが多いことがわかる。しかし、発話動詞の「言う」、「話す」以外の意味について触れているものは少ない。今回取り上げた3冊のうち『中国語基本語ノート』には「讲」が「说」に置き換えられない意味や熟語が示されていたが、反対に「说」が「讲」に置き換えられない意味があるかについては触れられていない。また、『中国語基本語ノート』においては「讲」と「说」のみの比較をしているため、「谈」についても同じように他には置き換えられない意味があるかどうかは明らかになっていない。

また、発話動詞の地域による使用差について『中国語基本語ノート』では以下のように述べている。「ひろい中国のことですから、地域によってことばが変わるのもふしぎではありません。たとえば、「話をする」の“说” *shuō* は、南方の多くの方言で“讲”に置きかえられます。」(『中国語基本語ノート』: 149) このように、「讲」と「说」の地域差について触れていることはあるが、具体的にどの地域でどちらを使用するのか、境界がどこにあるかについてまで詳しくは書かれていない。

### 第3章 普通话における各発話動詞の意味

#### 1. はじめに

本章では本研究において調査対象とする発話動詞「讲」、「说」、「话」、「谈」について、中国国家が共通語として定めている「普通话」においてどのような意味機能の差異があるかについて、本研究においては特に各語の動詞的意味機能について《现代汉语词典》に記載されている意味項目から考察する。

まず各発話動詞の項目にどのような動詞的意味項目が記載されているかを明記し、その記載内容から各語の普通话における意味機能と複数の発話

動詞に共通する意味項目と各発話動詞固有の意味項目を明らかにしていく。

## 2. 調査方法

本章では《現代汉语词典》を用いて調査対象とする4つの発話動詞「讲」、  
「说」、「话」、「谈」の項目に記載されている意味項目の中から動詞的用法  
と明記してある意味項目（意味項目の冒頭に「动」と記載されているもの）  
とその例文を全て集め、その記載内容から各発話動詞の意味機能について  
調査する。

## 3. 《現代汉语词典》における各発話動詞の意味

ここでは《現代汉语词典》における各発話動詞の記載をもとに「讲」、「说」、  
「话」、「谈」の普通话での動詞の意味を示し、複数の発話動詞に共通する  
意味と特定の発話動詞固有の意味について考察する。

### 3.1 各発話動詞の意味

まず、各発話動詞について《現代汉语词典》に記載されている動詞的意  
味を示す。

表1は調査対象とする4つの発話動詞について《現代汉语词典》の各語  
の項目に記載されている意味項目のうち動詞の意味項目であるものの記載  
とその意味項目に記載されている例文を一覧表にしたものである。例文に  
ついては、文中でその例文が記載されている項目の発話動詞を太字で示し  
ている。

表1 《現代汉语词典》における各発話動詞の動詞的意味項目の記載

発話動詞	意味項目	例文
讲	说	讲故事／他高兴得话都讲不出来了。
	解释；说明；论述	讲书／这个字有几个讲法／这本书是讲气象的。
	商量；商议	讲价儿。
	讲求	讲卫生／讲团结／讲速度。
说	用话来表达意思	我不会唱歌，只说了个笑话。
	解释	一说就明白。
	责备；批评	挨说了／爸爸说了他几句。
	指说合；介绍	说婆家。
	意思上指	他这番话是说谁呢？
话	说；谈	话别／话家常／茶话会
谈	说话或讨论	漫谈／面谈／谈思想／二人谈得很投机

ここからは表1に基づき、発話動詞ごとに普通話においての意味機能について考察していく。また、意味項目の日本語訳については『中日辞典(第2版)』(小学館、北京・商務印書館共同編集 小学館 2003)を参照した。

### 3.1.1 「讲」の意味

「讲」の項目に現れた動詞的意味項目は「说(言う、話す)」、「解释；说明；论述(説明する)」、「商量；商议(相談する)」、「讲求(重んじる)」の計4項目であった。発話するという行為そのものを指す「言う」もしくは「話す」という意味項目があり、その上で発話を使用する具体的な行為である「説明する」、「相談する」という意味が現れた。「重んじる」という意味については必ずしも何かを声に出してしなければならない行為ではなく、「讲」の意味項目の中で最も発話から遠い意味である。

### 3.1.2 「说」の意味

「说」の項目には「用话来表达意思（言葉を用いて意味を表す）」、「解释（説明する）」、「责备；批评（責める）」、「指说合；介绍（紹介する）」、「意思上指（（意味上で）指す）」の計5つの動詞的意味項目が記載されており、「说」に現れる動詞的意味項目が今回調査した4つの発話動詞の中で最も多かった。「说」の項目にも「讲」と同じく「言う、話す」という意味を表す意味項目が現れた。それ以外の項目についても、やはり「讲」と同じように発話を使用する行為である「説明する」、「責める」、「紹介する」という意味項目が現れた。「（意味上で）指す」については意味が分かりにくいので例文を見ながら説明すると、記載されている例文「他这番话是说谁呢？（彼が言っているのはだれのことだ）」において「说」は彼が「言っている」ことを表しているのではなく、彼が言っていることが誰かを意味の上で「指している」ことを表している。この「（意味上で）指す」という行為を行うには言語によって何が何を指すのかを示さなければならないため、文章に書き起こすか発話をするかでないとこの行為は成立しないと考えられる。そのため、この「（意味上で）指す」という意味項目は発話と少なからず関係している意味項目と考えてよいだろう。このことから、「说」に記載されている意味項目は全て発話との関係が深いものであることがわかる。

### 3.1.3 「话」の意味

「话」の項目に現れた動詞的意味項目は「说；谈（言う、話す）」1項目のみであり、発話を使用する行為、しない行為ともに「讲」や「说」のように他の動詞的意味項目の記載はなかった。

### 3.1.4 「谈」の意味

「谈」の項目にも「话」と同じく現れた動詞的意味項目は1項目のみであり、その内容は「说话或讨论（話をする、あるいは討論する）」であった。

## 3.2 各発話動詞共通の意味と個別の意味

ここでは3.1で示した《現代汉语词典》における各発話動詞の意味項目

から複数の発話動詞に共通する意味項目の内容とその意味項目がどの発話動詞において共通しているかを示し、その後1つの発話動詞の項目のみに現れた意味項目についてその内容とどの発話動詞の項目に現れたかということから各発話動詞の動詞的用法の違いについて考察する。

各発話動詞の意味の重なりを調べるため、各発話動詞と各項目に出現した動詞の意味項目を対応表にしたものが表2である。

各発話動詞の意味項目において辞書上の表記方法が違うだけで明らかに同じ意味を指しているものは表2中では一つの意味項目としてまとめて表示する。

表2 《現代汉语词典》に記載されている各発話動詞の動詞的意味項目

意味項目	讲	说	话	谈
言う、話す	○	○	○	○
説明する	○	○		
相談する	○			
重んじる	○			
責める		○		
紹介する		○		
(意味上で) 指す		○		

表2から普通話において各発話動詞が有する意味項目について、以下のことが明らかになった。

- (1) 本研究で調査対象とした4つの発話動詞全てに共通する意味項目は「言う、話す」のみであった。
- (2) 「話」と「談」については、「言う、話す」以外の動詞的意味項目が現れなかった。
- (3) 「説明する」という意味項目は「讲」、「说」の2語に共通して現れる意味項目であった。また、「言う、話す」と「説明する」以外の意味

項目は全て1語のみに現れる各語固有の意味項目である。

- (4)「讲」のみに現れる意味項目は「相談する」、「重んじる」の計2項目であり、「说」のみに現れる意味項目は「責める」、「紹介する」、「(意味上で)指す」の計3項目であった。また、「话」と「谈」の項目に出現した動詞の意味を表す意味項目の中で固有の意味項目は現れなかった。

この結果をもとに、以下では複数の発話動詞に共通する意味項目と特定の発話動詞のみに現れる固有の意味項目について考察していく。

### 3.2.1 共通の意味

ここでは、各発話動詞に共通して現れた動詞的意味項目について意味項目の表記や例文を参照しながら考察する。

まず、4つの発話動詞全てに共通して現れた意味項目「言う、話す」について発話動詞ごとに例文を見ることとする。

「讲」の例文は、「讲故事(物語をする)」と「他高兴得话都讲不出来了(彼はものも言えなくなるほどうれしかった)」の2つであった。この2つを見ると、「讲」が「言う」もしくは「話す」という意味を表す際には「讲故事」のように話す内容を明確にしている場合で使用することができ、かつ「他高兴得话都讲不出来了」のように言う内容が定まっていない場合においても使用することができる。

「说」の例文は「我不会唱歌,只说了个笑话(私は歌が下手なので、笑い話を一つ話した)」1つのみであり用法を断定することはできないが、他3つの発話動詞全ての例文に現れている熟語の形をとる例が現れなかった。

「话」の例文には「话别((分かれる前に)名残の語らいをする)」、「话家常(世間話をする)」、「茶话会(茶話会)」の3つが記載されていたが3つ全てが熟語の形をとっている例であり、文中で「话」が単独で動詞として使用されている例文は現れなかったため、「话」は普通話においてこのような使用方法はされないと考えられる。

「谈」の例文には「漫谈(雑談をする)」、「面谈(面談する)」と、その



場に2人以上の人がいないとできない行為が多い。また、「談」が文中で使用されている例文については「二人談得很投机」と主語が「二人」であることから、「談」は複数人で発話を使用する行為を行う際に使用されやすいと考えられる。

また、「讲」と「说」の2つの発話動詞において「説明する」という意味項目が共通して現れた。そこで「讲」の例文と「说」の例文を見て両者の用法を比較することとする。「讲」については例文が「讲书（講義する）」、「这个字有几个讲法（この字は何通りも解釈があります）」、「这本书是讲气象的（この本は气象のことを解説したものです）」の3つが記載されていた。「说」の例文については1つしか出ていなかったため正確な用法が確定できるとは言い難いが、「一说就明白（ちょっと説明すればすぐわかる）」を見ると「说」が単独で使用されていても文脈から「説明する」という意味を表すことができるということは明白である。それに対して「讲」も「这本书是讲气象的」を見ると、文中において単独で動詞として使用されている場合において「説明する」という意味を表すことができるが、「说」とは違いこの例文中では説明する内容である「气象」が明記されているという違いが見られた。

### 3.2.2 個別の意味

次に、特定の発話動詞のみに現れた固有の意味について述べる。3.2.1で挙げた「言う、話す」と「説明する」以外の意味項目については全て特定の発話動詞固有の意味項目であった。そのうち、「讲」のみに現れた動詞の意味項目は「相談する」、「重んじる」の2項目であった。また、「说」については「責める」、「紹介する」、「(意味上で) 指す」の3項目が「说」の項目のみに現れるものであった。「话」、「谈」については固有の動詞の意味項目が現れなかった。ただし、「谈」については意味項目の表記が「说话或讨论」と一つの項目で表されていたため「言う、話す」の項目のみとしたが、「讨论（討論する）」の意味を取り出して考えると「讨论」という意味を表す意味項目は他の3つの発話動詞には現れなかったため、「谈」のみが「討

論する」という意味機能を持つとも言える。

#### 4. まとめ

本章では4つの発話動詞「讲」、「说」、「话」、「谈」について、《現代汉语词典》に記載されている意味項目やその例文を比較することによって各語の普通話における動詞的意味機能の差異を明らかにした。以下に本章で考察した内容についてまとめる。

- (1) 調査対象とした4つの発話動詞全てに共通する意味項目は「言う、話す」のみであった。「言う、話す」に限らず、複数の発話動詞に共通している意味項目についての例文から各発話動詞の用法の違いが見られた。
- (2) 今回研究対象とした4つの発話動詞について、特定の発話動詞の項目のみに現れる意味項目が複数存在した。「讲」固有の意味項目は「相談する」、「重んじる」の2項目であり、「说」固有の意味項目は「責める」、「紹介する」、「(意味上で) 指す」の3項目であった。また、「谈」については単独の意味項目としては明記されていないが「言う、話す」という意味の中に「討論する」という意味機能を含んでいる。

## 第4章 発話動詞の方言分布

### 1. はじめに

国土の広い中国においては様々な方言が存在し、各方言によって発音、使用語彙などが異なる場合がある。そこで本章においては研究対象とする発話動詞の方言による差について、地域による使用発話動詞の差異と各発話動詞の地域による意味差の2面から考察する。

### 2. 調査方法

本研究では様々な地域の方言辞典を用いて調査対象とする発話動詞につ

いての項目を全て集め、その記載に基づいて各発話動詞の意味や地域分布について調査する。

また、本研究では様々な地域の方言を同一の基準で調査するため、《現代漢語方言大辞典・分巻》シリーズ計 40 冊（詳細については「使用辞書」参照）を使用する。

### 3. 発話動詞の方言分布

ここでは上記の研究方法に基づき、各発話動詞について地域による使用語の差異と意味機能の違いについて考察する。

#### 3.1 発話動詞使用の方言差

まず各方言で「言う」や「話す」という意味でどの発話動詞を使用するかについて、方言辞典における意味項目の記載から考察する。

まず発話動詞使用の地域差について中国の地図上で表し、その後地域のみならず方言区分による傾向について調査した。

##### 3.1.1 各方言で使用される発話動詞

ここでは上記の方法により、各発話動詞が日本語における「言う」や「話す」といった意味で使用されている地域について示す。

表 3 は各方言辞典において本研究で調査対象とする発話動詞「讲」、「说」、「话」、「谈」それぞれの意味項目に「用话来表达意思」、または「说」等、日本語における「言う」や「話す」に相当する意味が記載されているかどうかを表したものである。横軸に記載されている発話動詞について、縦軸の方言辞典に「用话来表达意思」、または「说」等の意味項目の記載がある場合該当部分を「○」で表し、記載がない場合は空欄とした。また、表は左上を先頭に並んでおり、記載が先のが中国大陆において北の地域であり、後に記載されている地域になるにつれて南の地域になる。また「地域」は各方言辞典のタイトルに記載されている地域名である。

表3 各方言において「言う」「話す」という意味で使用される発話動詞（省別）

省	地域	讲	说	话	谈	省	地域	讲	说	话	谈
黑龙江省	哈尔滨		○			浙江省	宁波			○	
维吾尔 自治区	乌鲁木齐		○				金华	○			
青海省	西宁		○				温州	○			
四川省	成都		○			福建省	福州	○			○
回族 自治区	银川		○				建瓯				
陕西省	西安	○	○			江西省	南昌			○	
山西省	忻州		○		○		黎川			○	
	太原		○				萍乡	○		○	
	万荣		○				于都			○	
山东省	牟平		○			湖北省	武汉	○	○		
	济南		○	○		湖南省	长沙	○			
安徽省	绩溪	○	○		○		娄底	○			
江苏省	徐州					贵州省	贵阳	○	○		
	扬州		○			广西省	柳州	○			
	南京	○	○				南宁	○			
	丹阳	○	○			广东省	梅县	○			
	苏州		○				东莞	○		○	
上海市	上海	○		○			广州	○		○	
	崇明			○		雷州	○				
浙江省	杭州		○	○		海南省	海口	○			

表3から発話動詞の方言分布についていくつかの特徴が明らかになった。

(1) 今回調査した40の地域中最も多く使用されていた発話動詞は「讲」

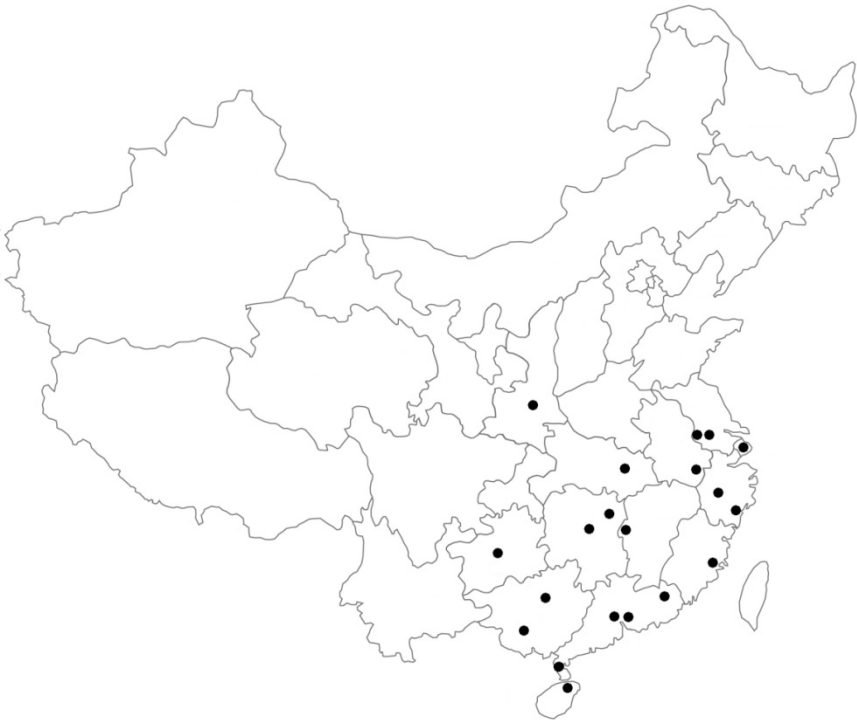
であり、20 箇所で使用されていた。「讲」に次いで使用されていた発話動詞は「说」であり、19 箇所で使用されている。そして残りは多いものから「话」の 11 箇所、「谈」の 3 箇所と続く。

- (2) 表の左上にあたる北方地域においては「说」が使用されている地域が多いが、表の右側にあたる南方地域では「说」の使用率が低いことが分かった。また、「讲」については「说」とは反対に北方にあたる表の左上部分にはほとんど出現せず、南方にあたる表右側では使用率がとても高いことが明らかになった。
- (3) 「话」を使用する地域は多くはないが、特定の省に使用地域が固まるという傾向が見られた。具体的には山东省、上海市、浙江省、江西省、广东省で使用され、他の省では使用されていなかった。特に江西省では調査した地域 4 箇所全てで使用されていた。
- (4) 「谈」を単独で「言う」もしくは「話す」という意味で使用している地域は存在しなかった。また、「谈」を使用する地域は他の 3 語のように傾向が見られず、「谈」を使用する地域が所属する省は全て違う省である。

上記のことから、同じ意味を表す語でも地域によって使用語彙に差があり、またその差には地域によって一定の傾向があることが分かる。そこで、表 3 の内容について南北のみではなく東西関係も含めより詳細に調査するため、発話動詞ごとに分布地域を地図上に示すこととする。

図 1～4 は各発話動詞について辞書に「言う」、「話す」という意味の項目がある地域を地図上で示した図である。地図上に「●」で示した地域が各発話動詞が「言う」、「話す」という意味で使用されている地域である。

図1 「讲」分布地図



まず、今回調査した地域中では最も多くの地域で使用されている発話動詞「讲」についてである。

図1を見ると、「讲」の使用地域は全体的に中国南部の地域に固まっており、北方での分布がほとんどないことが明らかである。

次に「讲」に次いで使用地域が多い「说」について、図2に分布を示す。

図2 「说」分布地図

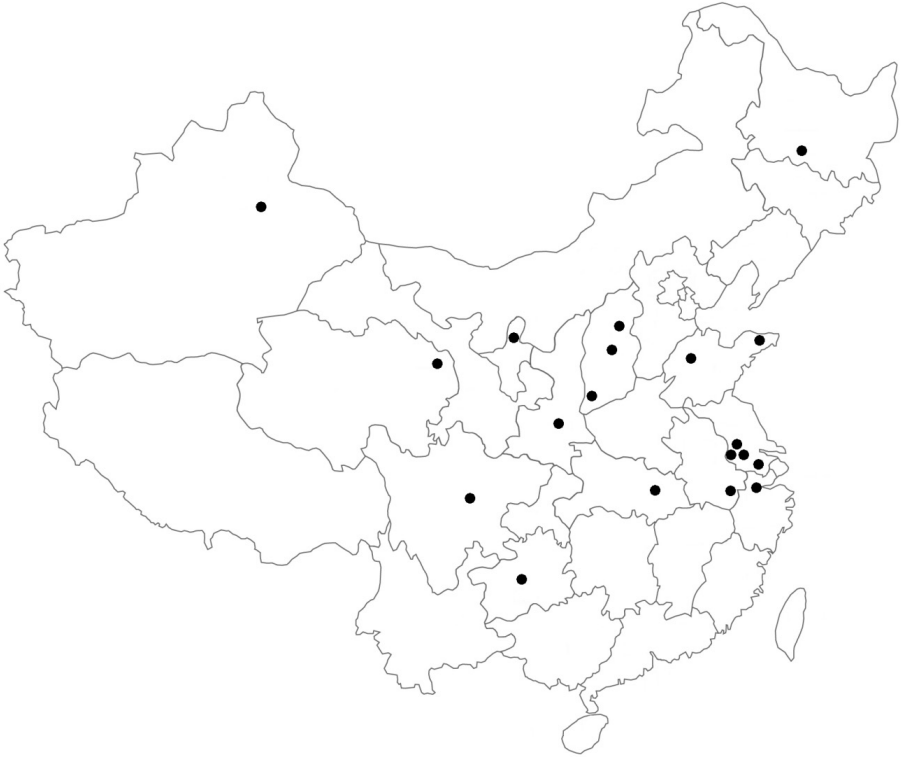


図2から、「说」の使用地域は「讲」とは対照的に中国中部から北部広域に分布しており、中国南部の地域では「说」はあまり使用されていないことが分かる。

次に、「讲」、「说」に続き3番目に使用地域が多い「话」の分布についてである。

図3 「話」分布地図

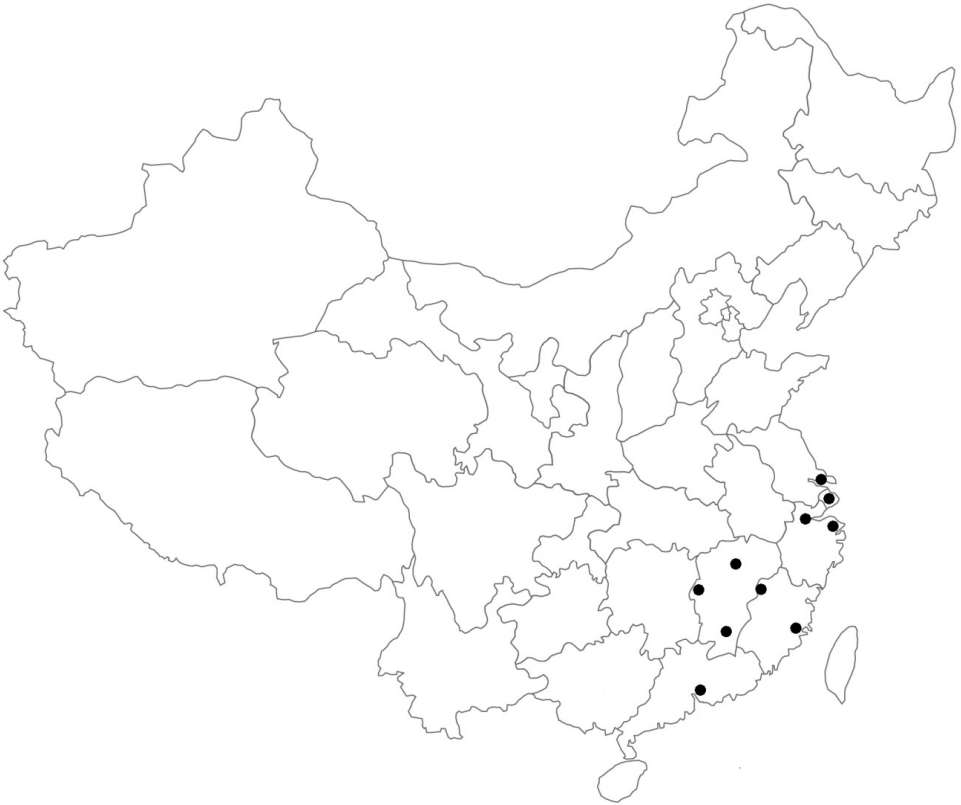


図3から、「話」の使用地域は「讲」と同じく中国南部、特に中国南東部に固まっており、沿岸地域と江西省での使用がほとんどであることが分かる。また、「说」が多く使用されている中国北部での使用は確認されなかった。

最後に、最も使用地域が少ない「谈」について、同様に分布を図4に示す。



図4 「谈」分布地図



「谈」を使用する地域は3箇所のみであるが、分布はばらばらである。「讲」、「话」が多い沿岸部にも分布しているが、「讲」、「话」を使用している地域がなく「说」を使用する地域が全体を占めている北方地域で使用されているケースもある。また、3つの中で中間に位置するもの(绩溪)に関しては「讲」、「说」両方が使用されている地域である。

図1～4をまとめ、調査対象とした4語全ての分布を地図上にまとめたものが図5である。

図5 発話動詞分布地図

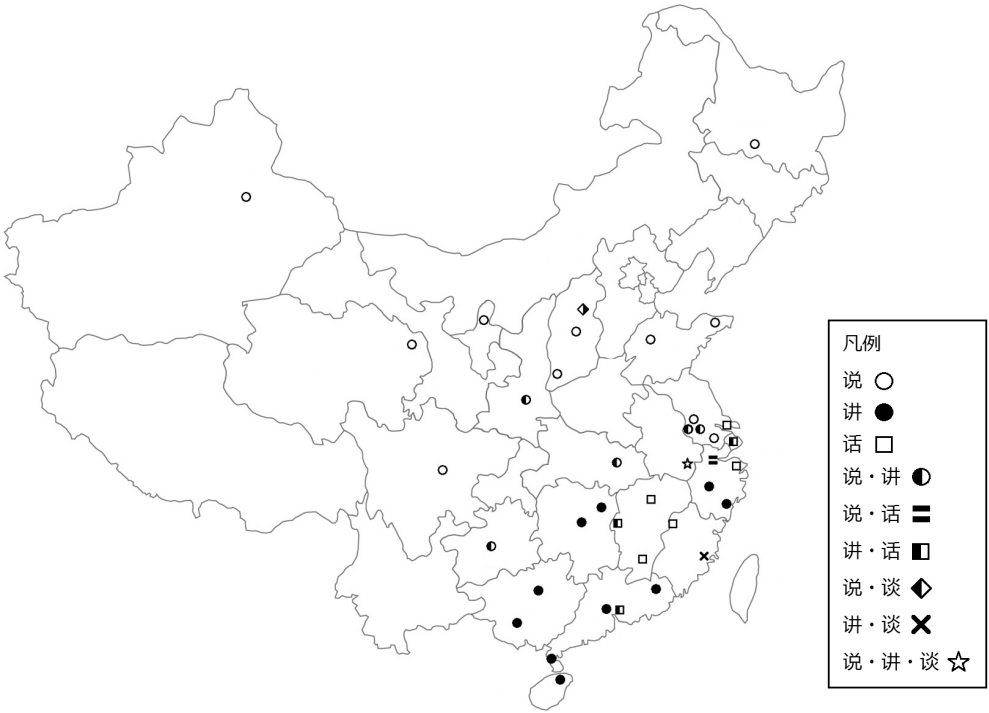
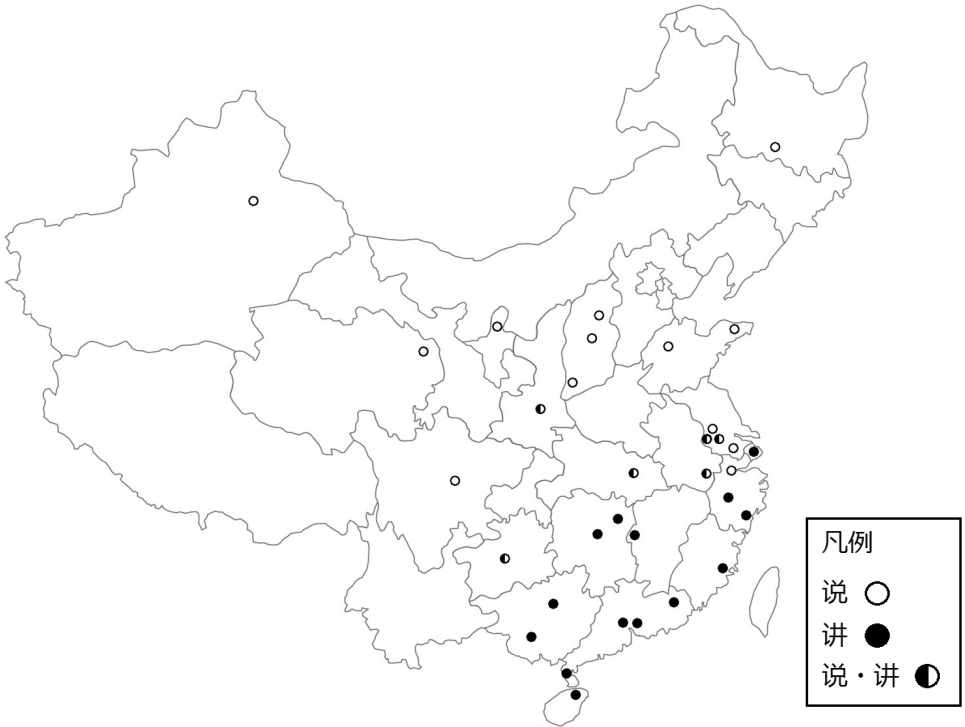


図1～4では発話動詞ごとに地域分布の傾向を見てきた。以下からは、各語の分布の境界線がどこにあるかについて詳しく探っていく。

図6～8は分布地域について一定の傾向が見られなかった「谈」を除く3語について、それぞれ「讲」と「说」、「讲」と「话」、「说」と「话」の組み合わせで2語ごとに分布を地図上に示したものである。

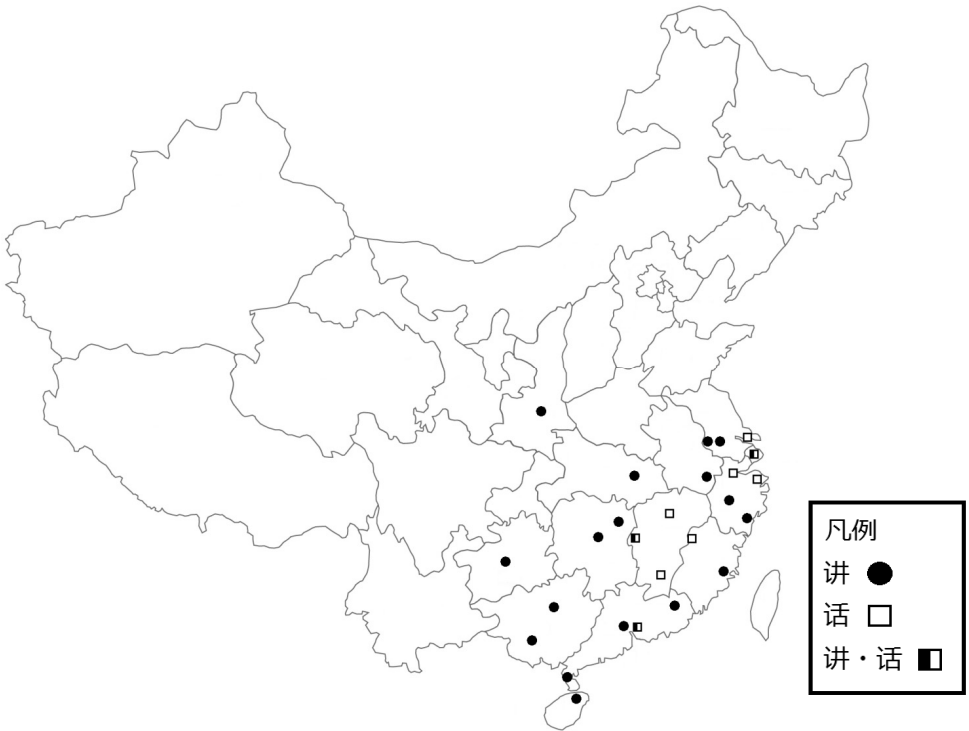
図6 「讲」、「说」分布地図



まず「讲」と「说」についてである。主に南方で使用される「讲」と北方で使用される「说」は、それぞれの分布地域において空白となっている部分を互いに埋めあうような関係となっており、「讲」、「说」両方の分布を地図上に示すと中国全土の地域分布をほぼカバーしているような形になる。

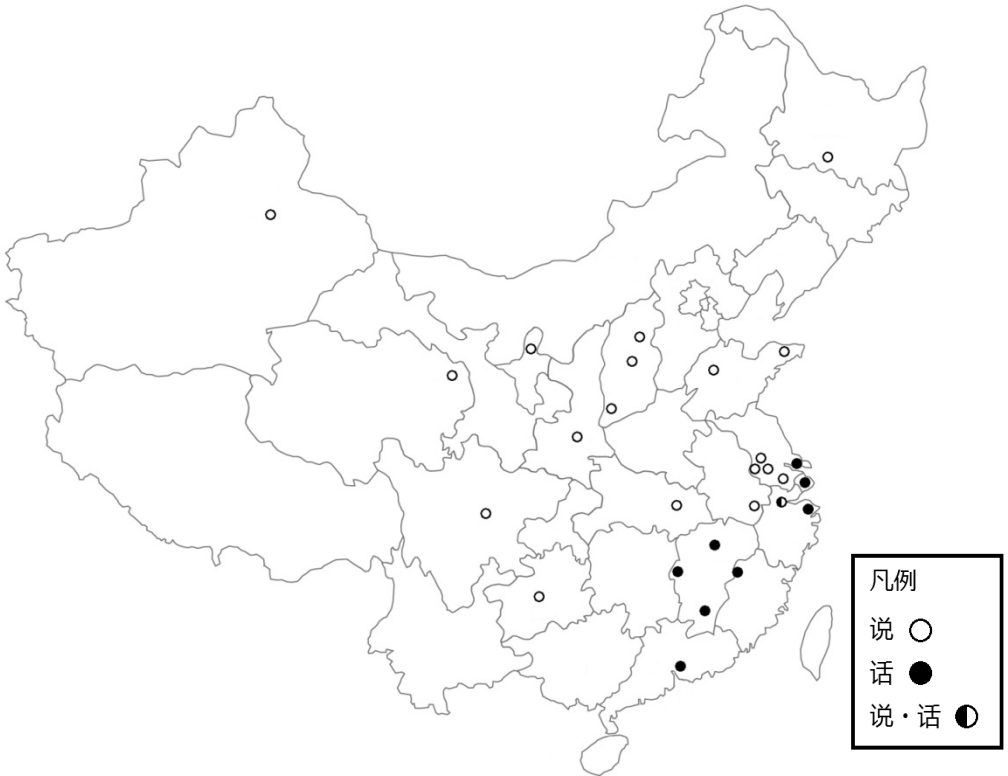
「讲」のみを使用する地域の上端にあたる地域、「说」のみを使用する地域の下端にあたる地域に「讲」、「说」両方の地域を使用する地域が分布しており、北から「说」のみの地域、「讲」、「说」両方を使用する地域、「讲」のみを使用する地域という三層構造のような形の分布になっている。

図7 「讲」、「话」分布地図



次に、「讲」と「话」についてである。図7を見ると、「讲」と「话」は分布地域に近いが、中国南部の広い地域に分布している「讲」の分布地域の中に部分的に「话」の分布地域が2箇所島のように現れていることが分かる。具体的には、江西省が「话」の分布地域の一つの島となっており、もう1箇所は上海を中心とし、浙江省北部、江蘇省東部までが一つの島となっている。中には「讲」と「话」が両方使用される地域も存在し、江西省西部は「讲」と「说」の関係の様に境界部分に「讲」と「话」が使用される地域が存在しているが、他の境界部分に関しては必ずしも境界部分に「讲」、「话」両方が使用される地域が存在しているわけではないということになるが、さらに細かく境界地域について調査すると両方を使用している地域が存在する可能性もあるため、さらに詳細な調査が必要である。

図8 「说」、「话」分布地図



最後に、「说」と「话」についてである。図5中で「话」の表記は「□」としているが、「说」で使用している記号「○」と形が近いため、図8において「话」は「●」で表記し、また「说」と「话」の両方を使用する地域の表記は「◐」とする。

図8を見ると、主に北方で使用されている「说」と中国南東部での使用が多く見られる「话」の分布地域はほとんど重なる部分がなく、「说」と「话」が両方使用されている地域は杭州1箇所のみである。「说」と「话」の使用地域の境界は「说」と「讲」の境界とほぼ同じであり、江苏省、安徽省、湖北省、贵州省までは「说」が使用され、先に述べた各省以南の地域であ

る上海市、浙江省、江西省は、「说」と「话」が両方使用されている杭州以外については「话」が使用される地域となっている。

### 3.1.2 方言区分における発話動詞の使用差

次に 3.1.1 と同じく各地域で使用される発話動詞について視点を変え、中国の地理の面からではなく中国語の方言区分から各発話動詞の分布を見ることとする。

中国語の方言区分については大きく二つの解釈があり、官话区、吴语区、闽语区、赣语区、客家区、湘语区、粤语区の七つの方言を七大方言として区分する場合と七大方言に晋语区、徽语区、平话を加えて十大方言とする場合がある。本研究においてはより詳細な区分に分けて研究をするため十大方言の区分を採用する。十大方言の区分については、図9を参照されたい。

図9 十大方言区分地図  
 (《中国语言地图集》第二分册より)

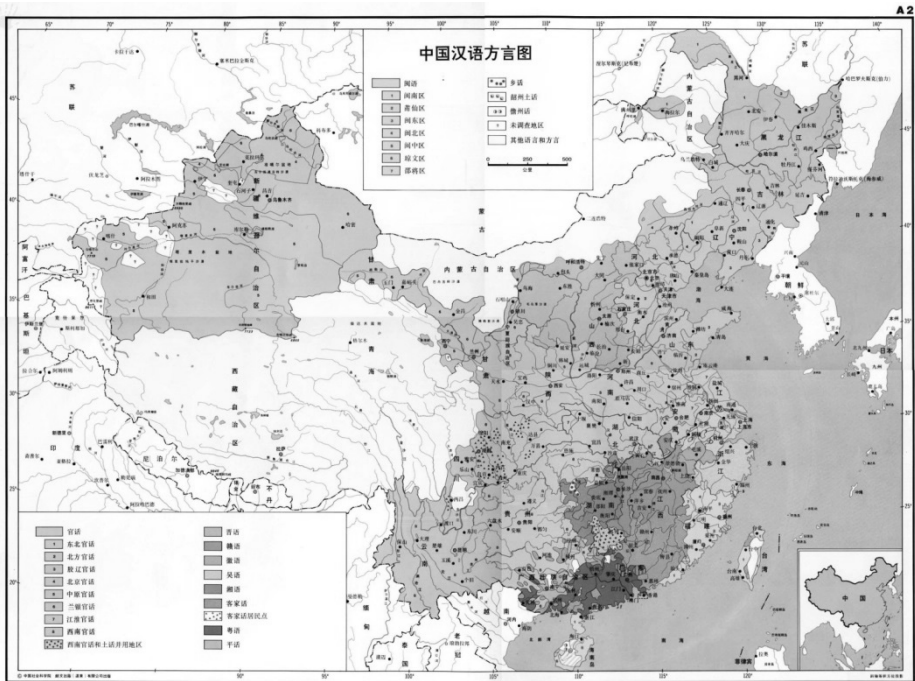




表4から発話動詞の使用地域とその方言分布との関係について見られた傾向について述べる。

- (1) 発話動詞ごとの傾向として、「讲」については吴语区、徽语区、闽语区、客家区、湘语区、粤语区、平话での使用地域が多く、各方言区分における調査地域の半数以上で使用されている。「说」は官话区、晋语区、徽语区中の調査地域ではほとんどの箇所で使用されており、その他の地域では吴语区の一部の地域以外では全く使用されていない。「话」については、赣语区、粤语区の全ての調査地域で使用されており、吴语区、客家区の調査地域の半数でも使用されている。その他の地域では官话区の济南以外の地域では使用されていない。「谈」を使用する3箇所は表3から使用地域が所属する省が全て違うことが明らかになったが、使用地域が所属する方言区分についても全て違うということが分かる。
- (2) 方言区分別の使用語彙の特徴としては、官话区については「讲」、「说」が使用されるが、「话」はあまり使用されないことが明らかである。また、晋语区、闽语区、湘语区は使用する発話動詞が1つのみであった。
- (3) 吴语区、客家区については地域によって使用される発話動詞に違いがあり、方言区分としての明確な傾向が見られなかった。

### 3.2 発話動詞の意味の方言差

ここでは、各発話動詞が調査対象とした地域においてどのような意味を持っているのかについて述べる。

表5～8はそれぞれ「讲」、「说」、「话」、「谈」について各地域の辞書でどのような動詞的意味項目が現れるかを表した表である。

まず「讲」の意味項目について考察する。表5は各地域の方言詞典に記載されていた「讲」の動詞的意味項目について、どの地域でどの意味項目が現れたかを表した表である。

調査対象とした40地域の辞書全ての動詞的意味項目を取り出した結果、



「讲」の項目に現れる動詞的意味は「言う、話す（辞書上に記載されている意味項目は「用话来表达意思」、「用话表达意思」、「用话表示意思」、「说」、「说（话）」、「谈」、「道）」、「相談する（「商量」、「商议」、「讨论）」、「説明する（「解释」、「说明」、「解说）」、「重んじる（「讲求」、「讲究」、「追求）」、「論じる（「论）」、「述べる（「叙述」、「讲解」、「讲述）」、「講義する（「讲授）」、「評価する（「衡量）」、「責める（「责备」、「批评」、「评论人事或责备）」、「紹介する（「说合」、「介绍）」、「（意味上で）指す（「意思上指）」、「注意する（「管・顾・注意」、「劝阻）」、「和解する（「和解）」、「非言語行為（「（用锨）铲起来扔）」の計14項目であった。

「讲」の意味項目が現れている箇所には偏りがなく、ほとんどの方言区分に属する地域で使用されていることが分かる。しかし、晋語区で調査対象となった2箇所の地域共に「讲」の項目が現れなかったことから、「讲」は晋語区では使用されていないことが明らかである。

また、「言う、話す」という意味項目が出てこない地域に関しては他の意味項目が一切現れなかった。すなわち、「言う」や「話す」といった意味が現れない場合、その地域では「讲」は使用されていないということである。

第3章で普通話における各発話動詞の意味項目について述べた際、「说」の項目のみに現れた「責める」、「紹介する」、「（意味上で）指す」という3つの意味項目が方言詞典においては「讲」の意味項目に現れる地域が複数存在した。このことから、「讲」は地域によっては普通話における「说」の意味機能を持ちうるということが明らかである。

また、西安のみに言語を使用しない行為である「（用锨）铲起来扔」という項目が現れた。

表5 各方言における「讲」の意味項目

方言区分		方言	言う、話す	相談する	説明する	重んじる	論じる	述べる	講義する	評価する	責める	紹介する	(意味上で)指す	注意する	和解する	非言語行為	
官話区	东北官話	哈尔滨															
	兰银官話	乌鲁木齐															
		银川															
	胶辽官話	牟平															
	冀魯官話	济南															
	中原官話	西宁															
		西安	○		○	○											○
		万榮															
	江淮官話	徐州															
		扬州															
南京		○			○		○				○						
西南官話	成都																
	武汉	○	○	○										○			
	贵阳	○		○							○	○	○				
	柳州	○															
晋語区	忻州																
吳語区	太原																
	丹阳	○	○		○												
	苏州																
	上海	○	○	○	○	○											
	崇明																
	杭州																
	宁波																
	金华	○															
温州	○														○		
徽語区	绩溪	○	○	○		○											
閩語区	福州	○	○	○								○					
	建瓯																
	雷州	○															
贛語区	海口	○									○	○	○	○			
	南昌																
	黎川																
客家区	萍乡	○	○		○	○	○										
	于都																
湘語区	梅县	○	○	○	○												
	娄底	○															
粵語区	长沙	○	○	○	○	○		○	○								
	东莞	○	○	○	○												
平話	广州	○	○	○	○												
	南宁	○	○	○							○						



次に、「説」についてである。表6は調査した方言詞典において「説」に現れた意味項目である。

「説」の項目に現れる意味項目は、「言う、話す（「用话来表达意思」、「用话来表达意思、感情」、「用话来表达」、「用言语来表达意思」、「说话」、「讲」）」、「説明する（「解释」、「诠释」）」、「責める（「责备」、「批评」）」、「紹介する（「介绍」、「介绍（婚姻）」、「说合」）」、「（意味上で）指す（「意思上指」）」、「告げる（「告诉」）」、「主張する（「主张」）」、「説得する（「劝说」）、「話題にする（「议论」）、「非言語行為（「吸」）」の計10項目であった。

表4を見るとまず全体的に意味項目が現れたことを示す「○」が表の上側に偏っていることが明らかである。このことから、「説」を使用する方言区分には偏りがあるということが分かる。具体的には、官話区、晋語区、吳語区では意味項目が現れる地域、1つの地域において複数の意味項目が現れる地域共に多い。また、客家区、湘語区、粵語区、平話では「説」の項目が現れる地域がなく、徽語区、閩語区、贛語区においては「説」の項目が1つの地域のみには現れず、それぞれ意味項目も1つずつしか現れなかった。

また、「讲」同様「言う、話す」の意味項目が出てこない地域に関しては他の意味項目も出てこない地域が多いが、「讲」とは違い福州、萍郷の2つの地域はそれぞれ別の意味項目のみが現れた。福州に現れた意味項目は「説明する」であり発話と関係する意味であるが、萍郷に現れた意味項目は発話と関係のない動詞である「吸（吸う）」であった。

「讲」に関しては普通話において「説」のみに現れた意味項目が現れる地域があったが、「説」については普通話において「讲」のみに現れた意味である「相談する」と「重んじる」という意味項目はどの地域にも現れなかった。「讲」は地域によっては普通話における「説」の役割を果たすことができるが、「説」はどの地域においても「讲」の普通話における意味機能を持ちえない、すなわち「説」はどの地域でも「讲」と同じ意味機能を持っておらず、「讲」とは置き換えることができないということが分かる。

「説」の意味項目にも「讲」同様萍郷1箇所のみ言語と関係ない行為

である「吸（吸う）」が現れた。

次に、「話」についてである。表7は各地域において「話」の項目に現れた動詞の意味項目である。

「話」の意味項目として現れた動詞の意味は「言う、話す（「用话来表达意思」、「说」、「讲」、「谈」、「道」、「叙）」、「責める（「责备」、「批评」、「责骂」、「指责）」、「紹介する（「说合」、「指请媒人说合」、「介绍）」、「説明する（「解释」、「说明）」、「相談する（「商量」、「商议）」、「告げる（「告诉）」、「注意する（「劝说」、「劝告）」、「非言語行為（「观察判断）」の計8項目であった。「話」が普通话において有している動詞の意味項目は「言う、話す」のみであったが、方言においてはそれ以外の動詞の意味項目が多数現れた。

表5を見ると、意味項目が現れたことを示す「○」の位置が官話区の济南を除くと吴語区の一部と贛語区から粵語区の範囲に固まって出現していることが明らかに見られる。このことから、「話」も「说」と同じく使用される地域や方言区分に傾向があることが分かる。

また、「話」も上述の2語「讲」、「说」と同様に「言う、話す」の意味項目が現れていない地域については他の意味項目が現れていない場合がほとんどであった。唯一例外となった地域は娄底であり、「説明する」という意味項目が現れた。

方言における「話」の意味項目には、普通话で「讲」、「说」の2語のみに現れた「説明する」という意味項目が現れた。また、「讲」のみに現れた「相談する」や「说」のみに現れた「紹介する」という意味項目も現れたが、普通话で「讲」のみに現れた「重んじる」と「说」のみに現れた「責める」、「(意味上で)指す」という意味項目については方言においても「話」の意味項目に現れなかった。「話」は方言において「讲」や「说」の持つ意味機能の一部を持ちうるが、「讲」、「说」どちらについてもそれぞれの普通话における意味機能と全く同じ意味機能を持つことはないということが分かる。

「話」も「讲」、「说」と同じように「非言語行為」が現れる地域が1箇



所存在した。「非言語行為」の内容は「観察判断（観察して判断する）」であった。

最後に、「談」に現れた意味項目について述べる。表8で各地域に現れた「談」の動詞の意味項目を示す。

表8 各方言における「談」の意味項目

方言区分		方言	言う、話す (でたらめを) 言う	恋愛について話す	方言区分	方言	言う、話す (でたらめを) 言う	恋愛について話す	方言区分	方言	言う、話す (でたらめを) 言う	恋愛について話す	
官話区	东北官話	哈尔			晋語区	忻州	○		贛語区	南昌			
	兰銀官話	烏魯				太原				黎川			
		銀川			吳語区	丹陽			萍鄉				
	胶辽官話	牟平				蘇州			客家区	梅县			
	冀魯官話	濟南				上海				于都			
	中原官話	西寧					崇明			湘語区	娄底		
		西安					杭州				长沙		
		万榮					寧波			粵語区	东莞		
		徐州					金華				廣州		
	江淮官話	揚州				○	溫州			平話	南寧		
		南京				徽語区	績溪	○					
	西南官話	成都					閩語区	福州	○				
		武漢				建甌							
		貴陽				雷州							
		柳州				海口							

「談」の項目が出現した地域は4箇所と他の3つの発話動詞と比較すると圧倒的に少なかった。出現した動詞的意味項目も少なく、「言う、話す(「説話或討論）」、「(でたらめを)言う(「(胡)説、(瞎)説」)」、「恋愛について話す(「特指谈恋爱」)」の計3項目であった。

「談」の項目に現れた3つの意味項目はいずれも「言う」や「話す」ということそのものに焦点が当たっている意味項目であったが、忻州の「(でたらめを)言う」については「言う」内容が「でたらめ」であると発話の内容が定まっており、また揚州に現れた「恋愛について話す」は「話す」内容が「恋愛について」である、と具体的に決まっていた。また、「談」は他の3語とは違い内容がある程度定められているとはいえ「言う、話す」から派生したようなある目的のために発話する意味項目(「説明する」、「紹介する」など)が現れなかった。このことから、「談」はどの地域の方言においても普通話における意味機能とほぼ同じ意味機能を有していると言える。

「談」については他の3語とは違い、言語を使用しない行為を表す意味項目はどの地域にも現れなかった。

以上表5～8を比較した結果明らかになったことを以下に記述する。

- (1) 最も意味項目が多かった発話動詞は「讲」(14項目)であり、逆に最も少なかった語は「談」(3項目)であった。同じ「言う、話す」という意味項目が現れる発話動詞であってもそこから派生する意味項目の数については語ごとに明らかに差があることが分かった。
- (2) 調査した4つの発話動詞全てに共通して現れる意味項目は「言う、話す」のみであった。また、各発話動詞のみに現れた固有の意味項目が全ての発話動詞について1つ以上現れた。「讲」については「重んじる」、「論じる」、「述べる」、「講義する」、「評価する」、「和解する」、「非言語行為(穴を掘る)」の計7項目、「説」では「主張する」、「説得する」、「話題にする」、「非言語行為(吸う)」の計4項目、「話」に関しては「非言語行為(観察して判断する)」1項目、「談」は「(嘘を)言う」、「恋愛について話す」の2項目であった。このように発



話動詞によって現れる意味項目の内容についても差があることが判明した。

- (3) 「言う、話す」という意味項目が現れない地域については「言う、話す」以外の意味項目が現れにくい、「说」では2箇所、「话」では1箇所例外があった。その意味項目については言語行為であるものもそうではないものも出現した。
- (4) 方言詞典における「讲」の項目には普通话において「说」のみに現れた3つの意味項目「責める」、「紹介する」、「(意味上で) 指す」が現れた。このことから、一部地域において「讲」は普通话における「说」の役割を果たしているということが明らかになった。しかし、「说」の方言詞典における意味項目には普通话で「讲」のみに現れる「相談する」、「重んじる」という意味項目は現れなかったことから、「说」は方言においても普通话における「讲」の意味機能を持ちえない、つまり「说」は「讲」に完全に置き換えられないということが判明した。また、「话」については普通话で「讲」、「说」の2語のみに現れる意味項目「説明する」や、「讲」のみに現れた「相談する」、「说」のみに現れた「紹介する」という意味項目が現れたが、それぞれの発話動詞のみに現れた意味項目全てが現れたわけではないため、「话」は方言において「讲」や「说」の普通话での意味機能の一部を表すことが可能である、とすることができる。

#### 4. まとめ

本章においては調査対象とする発話動詞「讲」、「说」、「话」、「谈」についてそれぞれの地域分布と各地域による意味の差異について述べた。以下に各発話動詞の地域分布について明らかになったことを記し、本章のまとめとする。

- (1) 地域ごとの使用される発話動詞の差異については、同じ意味を表す語であっても地域によって使用する語が異なる場合がある。本研究において研究対象とした発話動詞の場合、「讲」は主に中国南部で、

「说」は中部から北部で、「话」は「讲」と同じく南部の地域、特に南東部と沿岸部で使用されていることが明らかになった。また、「谈」の使用地域については特定の傾向が見られなかった。また、どの発話動詞を使用するかについて方言区分によって傾向が見られるところもあったが、同一の方言区分であれば必ずしも同じ発話動詞を同じように使用するというわけではなく、地域によって差があることが判明した。

- (2) 各発話動詞の意味は地域によって異なり、各語に現れる意味項目の数、内容ともに違いがあるということが明らかになった。また、調査対象とした4つの発話動詞全てに共通する意味は「言う、話す」のみであった。
- (3) 地域によっては、普通話における「说」の意味機能がそのまま「讲」に置き換えられるということが明らかになった。その反面、「说」はどの地域においても普通話の「讲」の意味機能をそのまま持つことはなかった。

## 第5章 結論

### 1. 普通話における各発話動詞の動詞的意味機能の差異

第3章から、各発話動詞の普通話における動詞的意味機能の共通点と差異について以下のような結論が得られた。

- (1) 調査対象とした4つの発話動詞全てに共通して現れた動詞的意味項目は「言う、話す」のみであった。その用法について、辞書に記載されている例文から発話動詞ごとに違いが見られた。まず「讲」については汎用性が高く、熟語の一部としても文中に単独で現れる動詞の用法としても使用でき、かつ話す内容が定まっている場合、定まっていない場合の両方で使用することができる。次に「说」は熟語の形を取る形の用例が記載されていなかったが、例文が1つしか記載されていなかったため、そのような形を取ることがないと断定

することはできない。「話」は「説」とは逆に熟語の形を取る例文のみが複数現れたため、文中において単独で動詞として使用されるという用法は取られないと考えられる。最後に「談」については複数人での行為に使用されやすいということが判明した。また、「讲」、「説」の2語に共通して「説明する」という意味項目が現れた。これについてそれぞれの例文の用法を比較すると、「讲」は説明する内容が明示されているのに対し、「説」は具体的に説明する内容を提示しなくても使用できるという違いが見られた。

- (2) 各発話動詞の《現代汉语词典》の項目に記載されている動詞の意味項目を調査した結果、特定の発話動詞のみに現れる動詞の意味項目が複数存在した。「讲」のみに現れた意味項目は「相談する」と「重んじる」の2つであり、「説」のみの意味項目は「責める」、「紹介する」、「(意味上で) 指す」の3つであった。「話」と「談」の辞書の項目に現れる動詞の意味項目は「言う、話す」のみで、単独の意味項目は現れなかった。

## 2. 各発話動詞の方言分布と地域ごとの意味機能の差異

第4章から、発話動詞と地域との関連性について以下のようにまとめられる。

- (1) 「言う、話す」といった意味で使用される発話動詞の方言分布について、発話動詞ごとに傾向が見られた。「讲」は中国南部の広い地域で使用されており、一方「説」は「讲」とは対照的に中国北部の広い地域で使用されていることが明らかになった。「讲」を使用する地域の北部と「説」を使用する地域の南部では、「讲」と「説」が両方使用されており、これらの地域が「讲」のみを使用する地域と「説」のみを使用する地域の境界線となっている。「話」は南東部の地域で多く使用されており、特に沿岸地域と江西省で使用されている。「談」については「言う」や「話す」といった意味で使用される地域が少なく、分布傾向が見られなかった。また、晋語区の地域では「説」

が使用されやすい、贛語区では全ての地域で「話」が使用される等、方言区分による使用語の差異が見られたが、必ずしも同一の方言区分の地域が同じ発話動詞を使用しているわけではないということも明らかになった。

- (2) 各発話動詞の意味は地域によって異なり、また各語に現れる意味項目の数、内容ともに違いが生じた。それぞれの地域で「言う、話す」という意味で使用されている発話動詞はその地域において「言う、話す」以外の意味項目が現れやすいが、「言う、話す」という意味で使用されていない発話動詞についてはそれ以外の意味項目が現れにくかった。また、各発話動詞の項目に現れる意味項目の特徴としては、数の面では「讲」が最も多く様々な意味で使用されているのに対し、「谈」の意味項目が4語中最も少なかった。意味の面では全ての発話動詞について他の語には現れない固有の意味項目が現れた。また、「讲」の意味項目には普通话において「说」のみに現れた意味項目が現れ、地域によっては普通话における「说」と全く同じ意味である地域も存在した。

### 3. 今後の課題

本研究では現代中国語の発話動詞について普通话、方言における各語の意味機能の差異や方言における使用語の違いを明らかにした。しかし本研究で解決できていない課題が多々あったため、今後の課題として以下に3つを示す。

まず1つ目は、本研究で研究対象とした4つの発話動詞全てが辞書の項目に現れなかった地域で「言う」や「話す」という意味を表す場合、どのような語を用いるのかという点である。本研究において調査した40の方言詞典のうち、建瓯については調査対象とした4つの発話動詞全ての項目において「言う、話す」という意味項目が現れなかったため、「言う」という意味を表す際にどのような語を使用しているのかを調査する必要があると考えている。使用されている語が特定できた場合、他に使用している地域

があるかについても調査の必要がある。

2 つ目の課題は、発話動詞の動詞的用法以外の用法についてどのような差があるかという点である。《現代汉语词典》の「讲」の項目には動詞的用法以外にも介詞（日本語における前置詞のような役割）としての用法の記載がある他、「话」の項目には1番目に名詞としての用法が記載されている等、各発話動詞には動詞的用法以外にも様々な使われ方をしている。各発話動詞の使い分けについて、動詞的用法以外での使用方法についても今後検討の余地があると考えている。

3 つ目に、調査対象とした4つの発話動詞以外の「言う」や「話す」といった意味を持つ発話動詞には何があり、「讲」、「说」、「话」、「谈」とはどのように使い分けられているかという点である。古代中国語において『論語』で使用されていた「曰」や、現代日本語で発話を表している「語る」の「語」は現代中国語においてどのように使用されているのか、もしくは古代中国語では使用されていたものの現代では使用されなくなってしまったのか、ということ等、現代古代を問わず中国語において「言う」や「話す」といった発話の基本的な意味で使用される発話動詞についても研究対象を広げ、それらの現代における意味機能の差異に留まらず発話動詞の歴史の変遷についても更に研究を深めることができると考えている。

## 参考文献

- 岩田礼 2008 「中国語の言語地理学：歴史、現状及び理論的課題」（金沢大学学術情報リポジトリ <http://hdl.handle.net/2297/12333>）
- 岩田礼 2009 『汉语方言解释地图』 白帝社
- 袁家骅等 1983 《汉语方言概要（第二版）》 文字改革出版社
- 北邨香代子・中山晶子・村田知子・中道真木男 「発話行動を表す動詞の意味分析」『日本語教育』34号（社団法人日本語教育学会）73-93
- 倉橋秀弘 1992 「英語シノニムの研究—英語発話動詞と日本語相当詞—」『東海大学紀要・海洋学部一般教養』第18輯（東海大学）31-40
- 興水優 1983 『中国語基本語ノート』 大修館書店

- 柴田武・國廣哲彌・長嶋善郎・山田進・浅野百合子 1979 『ことばの意味2 辞書に書いてないこと』 平凡社
- 中国社会科学院、澳大利亚人文科学院合編 1989 《中国语言地图集》第二分册 香港朗文出版(遠東)有限公司
- 张清源 1994 《同义词词典》 四川人民出版社
- 程荣 2010 《同义词大词典》 上海辞书出版社
- 鳥居孝栄 1994 「say,tell,speak,talk の対照意味分析(Ⅰ)」『研究紀要』31号(福島工業高等専門学校)52-58
- 鳥居孝栄 1994 「say,tell,speak,talk の対照意味分析(Ⅱ)」『研究紀要』32号(福島工業高等専門学校)96-104
- 宮本大輔 2005 「言語危機からみる中国の共通語政策」(神奈川大学学術機関リポジトリ <http://hdl.handle.net/10487/3568>)
- 宮本大輔 2007 「中国における言語評価—浙江省の大学生を例にして—」(神奈川大学学術機関リポジトリ <http://hdl.handle.net/10487/6610>)
- 游汝杰 2004 《汉语方言学教程》 上海世紀出版集團、上海教育出版社
- 中国まるごと百科事典(2012年11月16日閲覧) <http://allchinainfo.com/>

## 使用辞書

- 香坂順一 1986 『簡約 現代中国語辞典』 光生館
- 小学館、北京・商務印書館共同編集 2003 『中日辞典』(第2版) 小学館
- 商务印书馆・小学館 1992 『中日辞典』(第1版) 小学館
- 中国社会科学院语言研究所词典编辑室 2012 《现代汉语词典(第6版)》 商务印书馆
- 李榮主編、趙日新編纂、馬鎮興責任編輯 2003 《績溪方言詞典》江蘇教育出版社
- 李榮主編、葉祥苓編纂、周方・繆詠禾責任編輯 1998 《蘇州方言詞典》江蘇教育出版社
- 李榮主編、魏鋼強編纂、葉笑春責任編輯 1998 《萍鄉方言詞典》江蘇教育

出版社

- 李榮主編、張振興・蔡葉青編纂、陳鳳英責任編輯 1998 《雷州方言詞典》  
江蘇教育出版社
- 李榮主編、梁德曼・黃尚軍編纂、馬鎮興責任編輯 1998 《成都方言詞典》  
江蘇教育出版社
- 李榮主編、李如龍・潘渭水編纂、葉笑春責任編輯 1998 《建甌方言詞典》  
江蘇教育出版社
- 李榮主編、謝留文編纂、馬鎮興責任編輯 1998 《于都方言詞典》江蘇教育  
出版社
- 李榮主編、鮑士杰編纂、周方責任編輯 1998 《杭州方言詞典》江蘇教育出  
版社
- 李榮主編、白宛如編纂、戎文敏責任編輯 1998 《広州方言詞典》江蘇教育  
出版社
- 李榮主編、游汝杰・楊乾明編纂、葉笑春責任編輯 1998 《温州方言詞典》  
江蘇教育出版社
- 李榮主編、馮愛珍編纂、戎文敏責任編輯 1998 《福州方言詞典》江蘇教育  
出版社
- 李榮主編、錢曾怡編纂、葉笑春責任編輯 1997 《濟南方言詞典》江蘇教育  
出版社
- 李榮主編、吳建生・趙宏因編纂、馬鎮興責任編輯 1997 《萬榮方言詞典》  
江蘇教育出版社
- 李榮主編、覃遠雄・韋樹關・卞成林編纂、陳鳳英責任編輯 1997 《南寧平  
話詞典》江蘇教育出版社
- 李榮主編、湯珍珠・陳忠敏・吳新賢編纂、周方責任編輯 1997 《寧波方言  
詞典》江蘇教育出版社
- 李榮主編、詹伯慧・陳曉錦編纂、陳鳳英責任編輯 1997 《東莞方言詞典》  
江蘇教育出版社
- 李榮主編、許寶華・陶寰編纂、馬鎮興責任編輯 1997 《上海方言詞典》江  
蘇教育出版社

- 李榮主編、羅福騰編纂、戎文敏責任編輯 1997《牟平方言詞典》江蘇教育出版社
- 李榮主編、尹世超編纂、戎文敏責任編輯 1997《哈爾濱方言詞典》江蘇教育出版社
- 李榮主編、蘇曉青·呂永衛編纂、陳鳳英責任編輯 1996《徐州方言詞典》江蘇教育出版社
- 李榮主編、賀巍編纂、陳鳳英責任編輯 1996《洛陽方言詞典》江蘇教育出版社
- 李榮主編、曹志耘編纂、戎文敏責任編輯 1996《金華方言詞典》江蘇教育出版社
- 李榮主編、王世華·黃繼林編纂、馬鎮興責任編輯 1996《揚州方言詞典》江蘇教育出版社
- 李榮主編、李樹儼·張安生編纂、馬鎮興責任編輯 1996《銀川方言詞典》江蘇教育出版社
- 李榮主編、王軍虎編纂、馬鎮興責任編輯 1996《西安方言詞典》江蘇教育出版社
- 李榮主編、陳鴻邁編纂、葉笑春責任編輯 1996《海口方言詞典》江蘇教育出版社
- 李榮主編、周磊編纂、馬鎮興責任編輯 1995《烏魯木齊方言詞典》江蘇教育出版社
- 李榮主編、溫端政·張光明編纂、陳鳳英責任編輯 1995《忻州方言詞典》江蘇教育出版社
- 李榮主編、劉村漢編纂、陳鳳英責任編輯 1995《柳州方言詞典》江蘇教育出版社
- 李榮主編、顏森編纂、葉笑春責任編輯 1995《黎川方言詞典》江蘇教育出版社
- 李榮主編、黃雪貞編纂、戎文敏責任編輯 1995《梅縣方言詞典》江蘇教育出版社
- 李榮主編、劉丹青編纂、馬鎮興責任編輯 1995《南京方言詞典》江蘇教育出版社



- 出版社
- 李榮主編、熊正輝編纂、戎文敏責任編輯 1995《南昌方言詞典》江蘇教育出版社
- 出版社
- 李榮主編、朱建頌編纂、胡慧斌責任編輯 1995《武漢方言詞典》江蘇教育出版社
- 出版社
- 李榮主編、蔡國璐編纂、馬鎮興責任編輯 1995《丹陽方言詞典》江蘇教育出版社
- 出版社
- 李榮主編、沈明編纂、戎文敏責任編輯 1994《太原方言詞典》江蘇教育出版社
- 出版社
- 李榮主編、張成材編纂、葉笑春責任編輯 1994《西寧方言詞典》江蘇教育出版社
- 出版社
- 李榮主編、顏清徽・劉麗華編纂、陳鳳英責任編輯 1994《婁底方言詞典》江蘇教育出版社
- 出版社
- 李榮主編、汪平編纂、馬鎮興責任編輯 1994《貴陽方言詞典》江蘇教育出版社
- 出版社
- 李榮主編、鮑厚星・崔振華・沈若雲・伍雲姬編纂、馬鎮興責任編輯 1993《長沙方言詞典》江蘇教育出版社
- 出版社
- 李榮主編、張惠英編纂、馬鎮興責任編輯 1993《崇明方言詞典》江蘇教育出版社